

# 令和3年度 学校教育自己診断結果および分析

資料 1

● 実施時期 令和3年11月

● 回答生徒：59名（9名減） 保護者：10名（6名増） 教職員：21名（2名減）

※昨年度：生徒：68名 保護者：4名 教職員：23名

## 1. 生徒の自己診断結果

○肯定率の高い項目	肯定的意見(回答A・Bの合計)(%)	R2	R3
2	この学校には、他の学校にない特色がある。	77.9%	94.7%
3	学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	82.4%	91.5%
4	授業はわかりやすく楽しい。	79.4%	91.5%
26	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。	79.4%	91.5%
7	教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。	88.2%	89.8%
27	人権の大切さについて学ぶ機会がある。	85.1%	89.8%
13	先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる。	79.4%	89.7%
23	ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある。	82.4%	89.5%
31	教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいよう整備されている。	76.5%	89.5%
8	生徒の興味・関心、適正・進路に応じて選べる選択科目がある。	75.0%	88.1%
19	学校生活の中で、あいさつができています。	69.1%	88.1%

・ほぼすべての項目において昨年度よりも肯定率が上昇した。「2. 学校の特色」「4. 授業の楽しさ」「26. 命の大切さ」「31. 学校環境の整備」「19. あいさつができる」項目が昨年度よりも肯定率が大きく上昇している。教員の授業の工夫や改善に取り組み、その結果を生徒が肯定的に捉えているということがうかがえる。その他の授業に関する項目も高い肯定率を維持しており、「特色ある学校」として良さをいかしていきながら生徒たちが過ごしやすい学校づくりや授業・行事を展開したい。

・昨年度と同様に教員とのコミュニケーションについて生徒が肯定的に捉えていることも特徴である。上記の表「3. 生徒の意見をよく聞いてくれる」以外に、「20. 悩みや相談に応じてくれる」などの項目も高い肯定率を示した。教員も「9. カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」の肯定率が高いことから、こちらも授業や学校行事と同様に、教員の取り組みと生徒の受け止めがしっかり結びついていることがうかがえる。引き続き生徒の課題や背景を踏まえ、生徒に寄り添った指導を展開したい。

○肯定率の低い項目		R2	R3
28	授業や部活動での活動を通して、地域の人々とかかわる機会がある。	60.3%	63.8%
1	あなたは学校へ行くのが楽しい。	61.8%	66.1%
6	授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。	70.6%	71.2%
10	環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。	61.8%	71.2%
17	あなたは学校行事(体育祭や文化祭をなど)に楽しく取り組んでいる。	67.6%	71.9%

・授業に関する項目では、「6. 考えの発表」「10. 新しい課題について学習」などの項目が他の授業の項目に比べると低くなった。次年度から始まる新カリキュラムの中で探究活動を取り入れながら、授業の工夫や改善をしていくことが必要である。

・学校の授業の肯定率は高くなっている一方で、「1. 学校へ行くのが楽しい」「17. 行事に楽しく取り組む」は低い肯定率となった。授業＝学校ではないと捉えられるので生徒同士のつながりや学校行事を工夫していくことで、授業以外の学校生活の場面で生徒が楽しめる時間を増やしていくことが必要である。

## 2. 生徒、保護者、教職員の診断結果の比較

### ○得点の高い項目

#### 「学校に対する項目」

生徒：学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。	《91.4%》
保護者：学校は子どもの教育について家庭と積極的に連携している。	《88.9%》
教職員：生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。	《95.2%》

#### 「教育活動に対する項目」

生徒：授業はわかりやすく楽しい。	《91.5%》
保護者：子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。	《80.0%》
教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。	《100%》

「学校に対する項目」では、昨年度と同様に教員と生徒・保護者とのコミュニケーションに関する項目で肯定率が高かった。日常的に様々な場面において、教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることがうかがえる。

「教育活動に対する項目」では、昨年度と比べて生徒と保護者から「授業が楽しい」など授業に関する項目が高い評価を得た。教員が生徒の学力や学習状況を踏まえて授業の内容や展開を検討し、生徒・保護者がそれを肯定的に捉えているという関係性がうかがえる。授業改善や工夫の結果、生徒にとって「分かる・できる授業」の展開を学校全体で取り組む姿勢が定着し、楽しいと思える生徒が増えたと捉えられる。

### ○得点の低い項目

#### 「学校に対する項目」

生徒：授業や部活動での活動を通して、地域の人々と関わる機会がある。	《63.8%》
保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。	《30.0%》
教職員：地域の人々と接する機会を持っている。	《33.3%》

#### 「教育活動に対する項目」

生徒：あなたは学校へ行くのが楽しい。	《66.1%》
保護者：子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。	《70.0%》
教職員：人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れている。	《66.7%》

「学校に対する項目」では、昨年度と同様「地域の人々との関わり」「行事への参加」の肯定率が低い結果となった。活動時間やコロナ禍などの点で制約はあるが、生徒に社会参画の経験を積む機会を用意するという点から、地域と連携した取り組みを検討していく必要がある。

「教育活動に対する項目」に上がっている項目は、他の項目に比べて低い値を示したものであるが、評価自体は昨年度と比べると概ね改善傾向にある。次年度から新カリキュラムが導入されるなかで項目にあるような「新しい課題」や「問題解決的な学習」を扱うことが求められる。これまで展開し、定着しつつある教員の授業の取組みをもとに、生徒の実情を踏まえた教材研究や授業展開の工夫を進めたい。